

## こむの事業所 1 年の記録 (2020 年度)

認定特定非営利活動法人こむの事業所

2020 年度は、新型コロナウイルスに始まり新型コロナウイルスに終わったと言っても過言ではありません。年度当初には、感染の影響から駐車場、レストラン、市場の売り上げの大幅減少に見舞われ、事業存続の危機に立たされました。その中でスタッフ一同一丸となって、感染防止に取り組みながら障害者スタッフの仕事の継続を優先することによって、生活の安定と職業能力の維持に取り組んできました。

その一方で、国や県からの手厚い助成も積極的に活用しながら、子ども食堂や一般家庭へのテイクアウトメニューに取り組むなど事業収支の改善にも取り組みましたが就労支援事業は赤字になりました。その結果、全体には黒字決算となりましたものの、事業の構造的な課題が露わになり、事業収益の確保が事業継続の鍵になっています。

また当該年度においては、コロナ禍での引きこもりに起因した家庭内での暴力等から避難を要する人の住居利用が目立ち、シェルターとしての利用が自立訓練の利用を上回ると言う事態が生じています。

### 1 障害者スタッフ等の在籍、退職と一般就労

障害者スタッフの職域の拡大と職能の向上を目指して、2020 年 10 月から市社会福祉協議会の光明デイサービスセンターへの配食にチャレンジしました。スタッフの退職なども

あり、2021年度の開始は断念しましたが、厨房を含め配食に従事した障害者スタッフは、5人を超え、調理にチャレンジした人など職能の著しい成長を促すことができました。

障害者スタッフの一般就労については、施設外支援及びトライアル雇用制度を使いながら民間事業所への就労を目指しましたが、結果を出すことができませんでした。制度の制約により退職せざるを得なかった障害者スタッフについては、きめ細やかな支援が功を奏して一般就労を果たす事ができました。

表 1

障害者等スタッフ数の推移(各年5月1日現在)												
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
障害者スタッフ	4	14	15	15	19	18	22	19	22	20	23	23
退職者(年度)			3		4		3	5	2	1	1	1
一般就労(年度)							2	2	1	1	0	1
その他支援			2	3	3	5	6	4	4	7	7	6
正規・常勤職員	1	3	3	4	6	4	4	7	6	8	9	12
パート(常勤換算)	2	2	6.86	8.5	6.1	7.8	8	13.3	10.3	8.1	7	6.5

また障害者スタッフの応募に際しては、積極的に見学・体験を取り入れるようにしており、児童養護施設で暮らす特別支援学校の生徒がこむの事業所の仕事を見学した時に、トイレの清掃で便器を真剣に磨いてぴかぴかにしている障害者スタッフの姿に感動して、卒業後は、こむの事業所では働きたいという強い希望をもって頑張った結果、著名な企業への就職を果たす事ができました。

また社会とのつながりが難しい青年たちが、市内の支援機関から要請を受けて、こむの事業所で働いています。そのうちの1名は、働き始めてから8年を経て正規職員になりました。またほかの2名は、常勤スタッフとして厨房での調理や宝塚フィナンシェなどの菓子製造のスキルを身に付けて頑張っています。一昨年から昨年にかけては、2人が市内の企業への就職を果たして、自動車の運転技術などこむの事業所で身に付けた仕事のスキルを活かしながら働いています。

## 2 事業収支と支援事業の推移

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言によって、プレミア宝塚やぷらごこむ1が休館になったことから、レストランへの来客が著しく落ち込み、こむの市場もほとんど売り上げが得られない日が続きました。

幸い清掃業務や給食業務は継続することができたので、レストランこむずも営業を継続し障害者スタッフの仕事を継続して確保することができました。そのような努力のもとにあっても、4月の就労支援事業の収益は、前年同月の50%以上の減収となりましたために、持続化給付金を得て事業の継続を図りました。

その他、業務量の減少に合わせて主に現場の支援職員を中心に1～2月の休業を実施し、それに伴う休業手当に対して助成金が適用されたことも大きな支えになりました。

また、ボランティア団体や民間活動グループとも連携し、子ども食堂への弁当や一般家庭向けのテイクアウトメニューに取り組んだことが、次の事業への足がかりになっています。

8月ごろからは徐々に来客数も戻り、業績も回復の兆しが見えてきましたが、収益が8割程度まで戻ったところで第3波に見舞われ、年間の就労支援事業の収益は大幅減となりました。

その一方で、障害者スタッフが勤務した日数に応じて支払いを受ける自立支援給付費は、障害者スタッフの仕事を確保してきたことにより、前年度以上の実績となったことに加えて、前年度、前々年度に2名の障害者スタッフが一般就労を果たしたことによる給付費の加算があったことにより、全体の収支は大幅な黒字になっています。

ただその収入のうち210万円は、住居整備等のための寄付金となっています。

表 2

事業収支の推移	単位千円										
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入	9,062	54,774	75,999	74,651	88,598	93,025	88,214	93,058	110,526	114,253	119,749
支出	14,155	52,129	63,917	73,500	85,592	90,388	91,660	97,685	112,153	110,798	110,832
収支	△5,092	2,644	12,082	1,151	3,006	1,844	△3,446	△4,626	△1,627	3,455	8,917
特開金		3,450	7,050	2,400	2,377	1,185	1,300	1,200	1,200	2,500	2,233

次の表 3 は、就労支援事業の事業ごとの推移を売り上げベースで表したものです。フレミラ宝塚、市立健康センターの清掃は、受託が途切れることなく、安定した売り上げの確保につながりました。

しかし施設清掃は、早朝から午前中の仕事であるために障害者スタッフの仕事と賃金を増やすためには、午後の仕事を創り出すことが創業時からの課題でした。えびす面描きの仕事やマスクの検品箱詰めなどの内職仕事を請け負うなど努力をしてきましたが大幅な業務量の拡大は難しく、マンション等の民間施設清掃業務の拡大を目指してきました。

幸いオーナーの理解により前年度から取り組んできたマンション清掃を拡充することができたため、清掃事業は売り上げの増加を見ることができました。

その一方で駐車場利用は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためのフレミラ宝塚等施設利用の制限の影響を被り、来館者の大幅減少による収入減になりました。

表 3

就労支援事業収入の推移	単位千円										
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
レストラン・配食		2,963	4,881	6,852	9,273	12,087	13,049	17,144	21,777	18,390	25,561
給食	4,004	10,606	13,802	13,732	13,357	13,330	13,526	13,288	13,069	10,763	
市場		1,200	4,401	6,175	8,338	8,938	8,374	8,256	16,301	12,692	6,950
パソコン事業				2,409	3,622	4,864	3,050	3,068	1,700	1,274	566
清掃	1,285	7,887	8,065	6,987	10,668	11,902	10,656	12,183	11,203	11,638	14,154
駐車場		6,663	7,033	7,695	7,763	8,068	7,345	7,003	6,816	6,386	4,407
事業収入計	5,289	29,319	38,182	43,850	53,021	59,189	56,000	60,942	70,866	61,143	51,638

表 4 は、兵庫県の最低賃金と障害者スタッフへの支払い賃金の推移を表した表です。こむの事業所は、創業以来障害者スタッフの仕事と賃金を増やし、週 30 時間以上の労働時間を確保して、労働者としての権利である社会保険の適用をまず第一の目標とし、生活が成り立つ金額の賃金を確保することを第二の目標として全員で頑張ってきました。

2020 年度は、最低賃金がわずか 1 円の改訂であったにもかかわらず、障害者スタッフへの支払い賃金を大幅に増やすことができ、目的の達成に向けた大きな前進であったと考えています。

しかし、その一方で就労支援事業収入が大幅に減少したために、就労支援事業の収支は、300 万円を超える赤字になりました。この赤字は、就労継続支援事業 A 型としては深刻な構造的課題であるため、2021 年度には抜本的に解決することが求められています。

表 4

最低賃金と障害者スタッフ支払い賃金の推移	障害者スタッフ賃金は単位千円									
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
兵庫県最低賃金	734円	739円	761円	776円	794円	819円	844円	871円	899円	900円
障害者スタッフ賃金	11,757	13,901	15,635	18,496	18,934	18,573	17,915	22,135	22,936	25,169

### 3 ディーセントワークと職業能力開発

今日社会も事業も多様性（ダイバーシティ）を持つことが持続可能性（サステナビリティ）につながる重要なポイントであると言われています。そのことは、様々な障害のあるスタッフの就業がそれぞれの特性に応じた業務に従事できる可能性が高いという大きなメリットがあります。

ただ非常に多様な仕事のスキルを磨いていくことは、簡単なことではなく、支援のスタッフの力量を高めることが必要であるため、資格取得や技能習得のための研修に、体系的

に取り組んでいます。そのことは少しずつ成果をあげつつあり、週 20 時間未満のパート職から週 30 時間超えて社会保険適用になったことに加え、2020 年度には正規職員になるスタッフも現れました。

そのモデルは、障害者スタッフのキャリアとしても認識されつつあり、仕事の質を高めていく強いインセンティブになりつつあります。

#### (1) 駐車場管理業務

駐車場管理業務は、清掃や調理補助などの業務に就くことが困難な障害のあるスタッフのかけがえのない仕事になっています。2020 年度末に制度の都合で退職をした視力に障害のあるスタッフが、駐車場業務を遂行するうえで必要とした様々な合理的配慮は、こむの事業所にとっても貴重な経験となりました。

この業務がこのように他の業務では考えられない多様な障害のあるスタッフの仕事となっていると評価できる反面、待ちの仕事であり、その間の精神的な負担や職業能力の向上につながりにくい側面が、ディーセントワークとは言い難いという指摘がなされてきましたが、スタッフミーティングを重ね、発生する様々な問題に主体的に取り組む態勢が整ってきていることから、職能の開発につながっていると考えています。

#### (2) 清掃業務

清掃業務は、早朝から出勤をし、施設を清潔に保って快適に利用してもらうための大切な業務であり、新型コロナウイルスの脅威に立ち向かう最前線の仕事としてエッセンシャルワークと呼ばれるようになっていきます。

仕事でつまづいたり社会的なつながりが困難であったりする人々が、清掃の業務を経験して仕事の基本を身に着け、働く力を得ていく姿を数多く見てきました。清掃業務の持つ

このような特性は、他の業務ではなかなか得難いものであり、より多くの人がある経験を得ることができるよう、業務の拡大を進めたいと考えています。

### (3) レストランこむずのホールサービスと厨房業務

レストランこむずは、新型コロナの打撃を最も強く被りました。その中で、感染予防対策に取り組み、スタッフの態勢やサービスに創意工夫を重ねて、お客様の評価を落とすことなく営業をつづけることができました。

この間のテイクアウトメニューや子ども食堂への配食の実績から、事業当初の目標であるコミュニティレストランとして、地域の認知度も高まってきていると実感しています。そのことは特にホールスタッフにとっては何ものにも代えがたいモチベーションの源泉になっています。

### (4) こむの市場

こむの市場は、来客の減少が著しく事業継続の瀬戸際に立たされています。しかしその業務は、農家からの集荷、野菜の値付け、商品展示、販売レジ、出張販売など多様で、スタッフの職能を高めるには、最も優れた業務であり、市場の仕事を経験して一般就労を果たし、正規職員として頑張っているOBもいます。

その機能を考えれば、こむの市場の存在は大きいので、西谷の地場野菜の仕入れと販売を開始したときの原点に立ち返って事業の再構築を行い、宝塚ブルーベリージャム、はちみつ、大葉ジェノベーゼに続く商品開発に取り組みたいと考えています。

#### 4 新型コロナウイルスの影響からの脱却

こむの事業所は、2018年度には7,086万円あった就労支援事業の収益が2020年度には5,163万円におちこむなど、新型コロナウイルス感染の拡大に伴う影響を受け、就労支援事業会計は、深刻な構造上の問題を抱えています。

その一方で、事業所全体では持続化給付金など新型コロナ対策助成金を得たことなどにより黒字決算であり、障害者スタッフへの賃金支払い総額も大幅に増加するなど、プラスの面も得られています。

加えて、スタッフ全体の業務遂行能力や仕事へのモチベーションも高い水準で維持できていることから、財政基盤、人的基盤のいずれも構築されつつあります。そのことから、どのような事業拡大にも対応が可能と判断され、そのための商品開発と営業に全力を傾注できる条件は整っていると考えています。

具体的には、公共施設の清掃現場を新たに確保するために、宝塚市との協議を進めるとともに新たな民間施設の受注も目指します。配食サービスについては、宝塚めふプラザの暫定移設で減益となっているところを、スイッチオンデイサービス新施設の給食受注を確保し補填するとともに、老人デイサービス施設への事業拡大に取り組みます。

また宝塚フィナンシェの製造が順調に推移していることを踏まえて、こむの事業所のオリジナルブランド商品を新たに開発し、就労支援事業の大幅な収支の改善を実現します。

## 5 住居支援

こむの事業所の住居支援事業は、年を経るごとに利用が拡大し、2020年度は、延べ利用日数が600日を超える状況になっています。とりわけ、新型コロナウイルスの影響から家庭内の暴力からの緊急避難の利用がめだっており、自立訓練の利用機会が狭まっている実態があります。

加えて、利用のための準備態勢が厳しい現実から利用を抑制せざるを得なくなっており、新たなシェルターの確保も含めて、今後の在り方について検討すべき時期を迎えていると考えています。

表5

住居利用の推移	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用延べ日数	0	123	23	54	314	131	552	561	518	664
利用件数	0	4	5	9	4	9	14	8	23	16